

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	有明町立有明中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	103	115	119	3	340	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する生徒の育成
 ~基礎基本の定着を高め、生徒のよさを伸ばす学習活動をめざして~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

少人数授業としては、1年生の国語と英語、2年生の英語と数学、3年生の数学
 ・これまでの研究成果と生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため

すべての選択授業 全41コース
 ・必修教科ではできにくい取組が可能だから。また、平成14年度から継続研究の選択授業もあるため

すべての教員で学力向上の研究に取り組むため、少人数授業を行わない必修教科でも、領域や単元を絞って取組を行った。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 少人数授業の実施・選択教科の工夫</p> <p>研究の見通し（仮説） 生徒たちの実態に応じた教材を開発し、少人数授業や多様な選択授業のコースの設定など個に応じたきめ細かな指導を行っていけば、生徒たちの学習意欲が高まり、学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 少人数授業における指導体制、指導方法の工夫改善 ・少人数授業における工夫改善 ・TT授業における工夫改善 (2) 効果の上がる選択授業のあり方 ・発展的、補足的な学習の取組 ・選択授業における指導体制の工夫改善</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 少人数授業の拡大と充実・選択教科の工夫・それらに関わる教材開発</p> <p>研究の見通し（仮説） 少人数授業や多様な選択授業のコースを設定し、生徒たちの実態に応じた教材開発を行い、生徒の学習活動に対して適切な支援・評価をすれば、生徒たちの学習意欲が高まり、「確かな学力」を高めていくことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別を含む少人数授業における工夫改善 ・T T 授業における工夫改善 <p>(2) 効果の上がる選択授業のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的、補充的な学習の取組 ・選択授業における指導体制の工夫改善 <p>(3) 個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会の積極的開催 ・研究授業の実施と研究会における授業検討 ・研究校や先進校の視察及び報告会の実施 <p>研究の中心を教材開発とし、評価についても仮説に盛り込んだ。平成14年度の取組の反省で、少人数授業や選択授業などどのような指導方法・指導体制をとっても、その授業を行うための教材が必要であるという意見が多かったためである。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 少人数授業の拡大と充実・選択教科の工夫・それに関わる教材開発と評価</p> <p>研究の見通し（仮説） 少人数授業や多様な選択授業のコースを設定し、生徒たちの実態に応じた教材開発を行い、生徒の学習活動に対して適切な支援・評価をすれば、生徒たちの学習意欲が高まり、「確かな学力」を高めていくことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別を含む少人数授業における工夫改善 ・T T 授業における工夫改善 <p>(2) 効果の上がる選択授業のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的、補充的な学習の取組 ・選択授業における指導体制の工夫改善 <p>(3) 個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会の積極的開催 ・研究授業の実施と研究会における授業検討 ・研究校や先進校の視察及び報告会の実施 <p>(4) 生徒の学力の評価を生かした指導の工夫改善</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

	<p>平成14年度は、専門部会として授業研究部・選択授業研究部・実態調査研究部の3研究部をもった。しかし、専門部として役割分担を行っても、少人数授業を行う教科担当の負担が大きかった。そこで平成15年度は、教科部会を研究の中心の部会とし、すべての教員が学力向上に取り組むようにした。</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 観点別到達度学力検査（CRT）の結果より	<p>CRTの結果では、9割以上の教科で全国平均を上回っている。これは、少人数授業や選択授業による発展的・補充的な学習の実施、さらに教材研究を深め、授業に対して様々な工夫を行ったためと考えられる。</p>
--------------------------	--

少人数授業として、特に成果が上がっている教科や観点は、以下の通りである。(Aは十分満足、Bはおおむね満足、Cは努力を必要。観点別評定は興味・関心・態度を除いた評定である。)

・1年生の国語の評定

有明中の得点率	72.0	全国の得点率	66.9
---------	------	--------	------

各評定の人数出現率(%)

評定	1	2	3	4	5
有明中	1	0	20	48	31
全国	1	6	30	38	25

・1年生の英語の評定

有明中の得点率	74.9	全国の得点率	66.3
---------	------	--------	------

各評定の人数出現率(%)

評定	1	2	3	4	5
有明中	0	8	25	40	27
全国	5	15	33	29	18

・2年生の数学の「数学的な表現・処理」「数量、図形などについての知識・理解」の観点

有明中の得点率	62.7	全国の得点率	57.7
---------	------	--------	------

「数学的な表現・処理」の観点の人数出現率(%)

段階	C	B	A
有明中	3	24	73
全国	19	24	57

「数量、図形などについての知識・理解」の観点の人数出現率(%)

段階	C	B	A
有明中	6	33	61
全国	20	32	48

・2年生の英語の「表現の能力」の観点

有明中の得点率	66.0	全国の得点率	62.2
---------	------	--------	------

「表現の能力」の観点の人数出現率(%)

段階	C	B	A
有明中	23	5	72
全国	30	28	43

理科及び社会では従来の一斉指導を行ったが、新しい教材教具を利用したり、指導過程を工夫したりして学力向上に努めた。直接体験や間接体験などを取り入れた理科では、1年生の自然事象への関心・意欲・態度のA（十分満足）の人数出現率が90%を超えた。また、ワークシートや指導過程の工夫を行った社会では、2年生の3観点評定の4と5の人数出現率が合計70%になった。

(2) その他の教科の主な成果

1年生の美術「色相環づくり」

色の三属性（色相・明度・彩度）や色相環についてはじめて、生徒自らが描いたイメージにそった意図的な配色が可能になると思われる。小学校での図工の時間には無意識に使っていたであろう絵の具の色が、実際はどのように分類され、どのような配色効果があるのか、今回の学習を通じて確認することができたようである。

1年生の家庭「食生活を見直そう」

ワークシートを使って自分の食生活を検討した結果、「2、3群が不足していた」「6群を取り過ぎている」「ジュースを飲み過ぎている」など、具体的に自分の食生活の問題点を見つけることができた。授業後は「自分がいかにジュースを飲んでいるかわかった。もっと減らしたいと思う」「実際に自分の一週間の食生活を振り返り、勉強になった。今後はできるだけ野菜を食べなければならぬと思う」というような感想が聞かれるようになった。

3年生の選択体育陸上コース

「チューブでアップ・ストライドひろげロープ」

走るのが「きつい」と感じている生徒がほとんどで、あまり積極的な活動ができていない状況であったが、調べ学習を導入することによって、より速く走りたいという意欲的な気持ちで、自主的に取り組むようになった。また器具を利用することによって記録も向上した。

3年生の選択技術「トレー&ティッシュボックス」

「トレー&ティッシュボックス」は、製図の時間を十分取ったので、生徒一人一人、製図の方法や図の見方が理解でき、完成品のイメージ化ができ、構想図・部品図を見ながら、けがき、材料取り、部品加工、組み立てができていた。

(3) 少人数授業に対する生徒の感想より

平成14年度は9割近い生徒がよかったという感想を持っていたが、平成15年度もほとんどの教科で8割以上の生徒が、よく質問や発表ができていているという感想を持っている。

授業の理解度については、平成14年度は約8割以上の生徒が理解できるようになったという感想を持っていたが、平成15年度も9割以上の生徒が理解できるようになったと答えており、きめ細かな指導の成果が現れている。

授業への集中度については、8割以上の生徒が集中して授業を受けていると答えている。

(4) 教員自身の成果

教材開発と評価表を冊子にまとめることができた。

学習の仕方についての補助資料作成し、全学年で配布して、学級活動で取り扱った。

教科部会の時間をできる限り確保したことにより、打ち合わせや情報交換が可能となった。

小学校で使用されている教科書の購入によって、入学前の既習事項の確認ができた。

すべての教員で研究に取り組むようにしたので、教員自身が学力向上に対して意欲的に取り組むようになった。活発な意見交換や教材研究・教材教具の開発が行われ、すべての教員の指導力向上につながった。

2. 今後の課題

C（努力を要する）の段階の生徒を、どのようにしてB（おおむね満足）の段階へ向上させるか。
さらなる教材研究と教材教具の開発。そのための時間の確保。
評価の工夫。

学力把握のための学校としての取組

<p>標準学力検査の実施</p> <p>(1) 調査の目的 全国的学力検査を実施することで、より客観的に学力を把握するため</p> <p>(2) 実施内容 ・1年生は全クラスで国語、社会、数学、理科、英語のC R Tを実施 ・2、3年生は全クラスで国語、社会、数学、理科、英語のN R Tを実施 ・2、3年生は1クラスずつ国語、社会、数学、理科、英語のC R Tを実施</p> <p>(3) 時期 ・C R Tは、全学年1月に実施 ・N R Tは、2、3年生とも4月に実施</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>第1回公開授業及び授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成15年10月16日(木) ・場 所：有明町立有明中学校 ・テーマ：3年生選択授業(選択教科における発展的・補足的な学習の取組) (教科名・音楽、美術、保健体育、技術、家庭) ・対 象：県内フロンティアスクール及び事務所管内の小・中学校教員 <p>第2回公開授業及び授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成15年11月21日(金) ・場 所：有明町立有明中学校 ・テーマ：3年生社会科(学び方を学ぶ指導過程の工夫) ・対 象：県内フロンティアスクール及び事務所管内の小・中学校教員 <p>フロンティアティ・チャ - の実践発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成15年8月19日(火) ・場 所：ユースピアさが ・テーマ：フロンティアスクールとしての学力向上の取組 ・対 象：武雄部教職員宿泊研修者(20名) <p>白石部教育会研究発表会での実践発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成15年12月25日(木) ・場 所：白石町立白石中学校 ・テーマ：フロンティアスクールとしての学力向上の取組と理科での実践事例 ・対 象：白石部教育会の小・中学校職員

-
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無